

新生児用の新型保育器

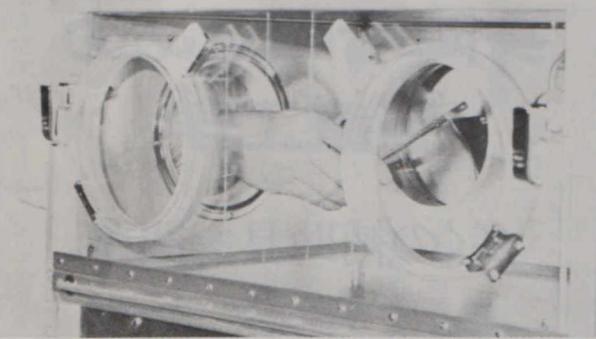
熱や湿度をうまく調節

新型保育器は、輻射熱システムで壁面がみな暖かく保たれるため、必要なだけ温度を上げても内部がくもららない。さらに、この保育器だと、医師は、酸素と空気の割合を幅広い組合せで、正確にコントロールすることができる。

国立研究所(NRC)の医療工学課は、イースタン・オンタリオ小児病院の協力を得て、熱と酸素のコントロール、湿度調整の点で従来の保育器より優れた新型の新生児用ポータブル保育器を開発した。

在來の保育器は、温風で暖房されていて、保育器の内壁に沿つて回つたあと、送風器で吹き出され、フィルターを通して、保育器に戻つてくる。サーモスタット(温度自動調整装置)は新生児からかなり離れているので、産院の中に保育器がある時でさえ、新生児の要求にあまりよく反応しない。たとえば、転院が必要となるのに、新型では電力消費量は百ワットですむ。「赤外線システムはすぐに熱を送れるし、能率も絶対いい」とデュリーフ博士は、これまでのポータブル保育器(と、据え付け型の保育器)では、概して湿度のコントロールが適切でない

反応しない。たとえば、転院が必要となるのに、新型では電力消費量は百ワットですむ。「赤外線システムはすぐに熱を送れるし、能率も絶対いい」とデュリーフ博士は、これまでのポータブル保育器(と、据え付け型の保育器)では、概して湿度のコントロールが適切でない



これまでの保育器では、温度を上げ、空気を動かすため三百ワット近く必要だつたのに、新型では電力消費量は百ワットですむ。「赤外線システムはすぐに熱を送れるし、能率も絶対いい」とデュリーフ博士は、これまでのポータブル保育器(と、据え付け型の保育器)では、概して湿度のコントロールが適切でない

これまでの保育器では、温度を上げ、空気を動かすため三百ワット近く必要だつたのに、新型では電力消費量は百ワットですむ。「赤外線システムはすぐに熱を送れるし、能率も絶対いい」とデュリーフ博士は、これまでのポータブル保育器(と、据え付け型の保育器)では、概して湿度のコントロールが適切でない

これまでの保育器では、温度を上げ、空気を動かすため三百ワット近く必要だつたのに、新型では電力消費量は百ワットですむ。「赤外線システムはすぐに熱を送れるし、能率も絶対いい」とデュリーフ博士は、これまでのポータブル保育器(と、据え付け型の保育器)では、概して湿度のコントロールが適切でない